

## 第5回 第5次羽咋市総合計画 審議会 会議録

日時 平成22年8月24日(火) 19時～21時

場所 羽咋市役所 4階 401会議室

出席者 各審議会委員(欠席者 井村委員、福田委員、山田委員)

アドバイザー 金沢大学 神谷教授

市側出席者

[事務局]

企画財政課長 岸 博一

企画財政課総括主幹 川口 哲治

企画財政課主幹 松田 秀治

企画財政課主任 中村 仁志

会議傍聴者 なし

### 1. 開会

### 2. 会長あいさつ

(略)

### 3. 第4回会議録の確認について

### 4. 会議傍聴者について

### 5. 審議事項

#### (1) これまでの振返りについて

『振返りシート』抜粋について事務局より説明の後審議

【委員】

・家庭で親が子どもを育てるとというのが基本でなかろうか。振り返りの文章にはそういった文言が抜けている。世間で問題になっている虐待とか育て方がわからないといった親がいたりするが、子育てしながら学ぶという経験をしてほしい。

【委員】

・反対するわけではないが、父子家庭、母子家庭だったりすると、仕事も忙しいから子どもは鍵っ子になってしまう。そうすると昔の大家族のような子育て

は難しい。親だから必ずしも温かみのある子育てができるとも限らない。

**【委員】**

・両親がしっかり子育てするというのが、基本になると思う。幼稚園や保育園は今、親の支援もするようになってきている。三世代であれば子育ての支援があったりするものの、核家族が増えてきて子どもの育て方がわからないという親が増えてきている。地域全体で“親を育てていく”“ことが大事ではないか。

**【会長】**

・江戸時代には地域ぐるみで周りの大人も皆で見守り、子育てをしていた。これからの羽咋市でも大事なのではないか。

**【委員】**

・結婚してこれから親になろうとするとき、地域に子育てを支援してほしいという青年層は多くいる。そうした提言をとという声もある。そのような施策を行えば、関心をもつ青年層に広がっていくだろう。“親を育てる”ということを行ってほしい。

**【委員】**

・今回の会議の進め方は、いいと思う。根本的な問題だと意見はそう簡単にはまとまらない。過去10年間を振り返るという意味では大変有益で、恒常的に活発にやってほしい。

**【企画財政課長】**

・総合計画の話は、分野が多岐に渡るので浅く広くなる。総合計画は10年に一度だが、できれば毎年提言をしてもらえるようにこのような会議を開いていたらどうかと思っている。例えば、福祉とか教育とかといったように専門部会のような形を考えている。今後の検討課題としたい。

**【委員】**

・「羽咋病院の小児科、産婦人科の医療体制の確立」という提言をしたが、ぜひこの10ヶ年の間に取り組んでほしい。出産の緊急時に金沢に走らなければならないということは避けたい。安心して羽咋で子どもを産めるように、医師の確保など取り組めるところから順次取り組んで行ってほしい。

### 【委員】

・羽咋病院の産婦人科と小児科が縮小した経緯についてご説明したい。その原因を理解して頂いた上で、議論につなげていてもらいたい。

・産婦人科は、当時、医師一人体制で賄っていた。帝王切開など大掛かりな手術を要した場合には、七尾の恵寿病院や金沢大学から応援を頂いて実施していた。そのような状況の中で、大学の医師の研修制度が入ってきて、医師の絶対数が不足するという事態になった。また一方で羽咋病院の利用率が十数%と非常に低いという問題があった。大病院志向があったりして、七尾や金沢、あるいは内灘といった病院で産むという傾向が強かった。利用して頂いたのは、富来町の方が多かった。

・小児科も、同じく大学の研修制度により、医師が不足するという問題があった。しかし、最近は、医師二人体制になっていると聞く。現在の状況ならば、まだ実現していないが、24時間体制でもできる状況にはあるようだ。

・産婦人科と小児科を縮小せざるを得なかった大きな理由として、地元の方にあまり利用してもらえなかったという点と、大学の当時の事情の二つがあった。

### 【委員】

・ある産婦人科医から聞いた話だと、小さな病院では緊急の時には危ないと。万が一の時に、専門医が4、5人ですぐ対処できるような大きな病院でないと何かあったら危険だとのこと。そのリスクをどう捉えるかは個人の問題であって、非常に難しい問題だと思う。

### 【委員】

・母子・父子家庭への支援ということで、「手当等現金の支給で済ますのではなく、その一部でも羽咋地域のみで使用可能な商品券の発行等に変更」とあったが、非常にいい提言だと思う。青年会議所でも地域通貨を実施してみた。福祉で生活保護などさまざまな支援をしているが、一部でも地区限定の商品券にして配布すれば、それが循環し地域活性化につながる。人と人のつながりができ、情も生まれ道徳にもつながっていく。

・さらにこれを期間限定にするともっと効果があると考えている。期間中に使用するだろうし、できなければ他人にあげたりもするだろう。そうやって経済が廻る。優しさや思いやりを生み、人間の深みをつくる。地産地消にもつながっていくものと考えている。理想的な地域社会が築けるのではないかな。

### 【委員】

・「理想的な地域社会が築けるのではないかな」という意見はどうだろうか。地域

振興券ではそう簡単にはいかないと思う。

・審議会の場合は、もっと正反対の意見も出し合えばよいのではないか。K J法といった方法もあるが、会議の進め方をどうしていったらよいか、アドバイザーに意見を求める。

#### 【アドバイザー】

・K J法はもっと少人数であれば効果があると思う。  
・会議の進め方として、論点をはっきりとさせるとよい。皆関心があるものと関心がないものとか。病院であれば制度。福祉であれば企業との関係とか。論点を整理すると議論しやすくなるのでは。

#### 【委員】

・「5歳児健診」を提言させてもらったが、1歳半健診や3歳健診で健やかに子どもが育っているなど確認できる。ところが、それ以降就学までは健診がない。他の町では5歳児健診を取り入れているところもあると聞く。小学校では担任以外に支援員が増えているそうだ。早期に発見し、備えるということは非常に大切なこと。羽咋の未来を担っていく子どもにたっぷり投資をしてほしい。

#### 【委員】

・「5歳児健診」の提言があったが、非常にいい提言だと思う。1歳半健診や3歳健診に今関わっていて、気になる子がいても保健師さんがどのように関わっているのか、その手立てがないというジレンマに陥っている。健診があれば、親御さんにも手を取り合いながらということができる。予算がないのであれば、自己負担でも実施できないか。意義のあることだと思っている。

#### 【委員】

・民生委員として地域サロンや筋トレなどの健康づくりにも携わっている。10年後見据えた計画となると、“元気な高齢者があふれる羽咋市”ではないだろうか。配偶者を亡くされてお年寄りが引き籠りになったりするのは寂しいので、出ていける場所を考えていったらどうか。民生委員、町会、公民館、公共施設含めてお年寄りを支える。社会福祉協議会にしてもらっている手厚い取り組みがあるので、それらを十分活かしながら、元気になれる介護予防に力を入れていったらどうか。

#### 【副会長】

・今回の委員から出てきている振り返りシートの提言は、羽咋市を思う熱い思

いがあふれていると思う。

・高齢者福祉については、これまでの10年間は、介護保険がスタートして高齢者に対する基盤整備はできていると思う。提言として書いたが、これからは「高齢者が高齢者を支え、支えられる町づくり」が大事になってくるのではないかな。

・統計上、今後10年で人口は増えることはない。少子高齢化が進む。企業が社会情勢の中厳しい状況にある。とすれば、未来を託すのは子の出生にある。5次総合計画では、子育て、子どもの支援を大きく打ち出せばどうか。福祉のみならず、環境や教育なども含めて未来を描く子どもへのエールだと思っている。

#### 【委員】

・高齢者の安否確認についての提言をしたが、重要な問題は個人情報保護の問題。行政と協働で行う場合、過度な個人情報保護が民生委員の活動を困難にすることがないように啓発したりすることも必要だ。

・高齢者の安否確認は、民生委員でなくても市独自でチェック可能なはず。介護保険や医療保険の利用状況など確認することでできるだろう。不自然な点があれば職員自ら安否を確認するといった丁重さが今後求められる。

#### 【委員】

・先ほど企画財政課長より、今後10年間を考えていく上で、専門部会を立ち上げたいという言葉があったので期待したい。

・町会や民生委員や団体組織などの既存のコミュニティを担ってきた人たちが、どんなポジションにいて、どうやって運営していくべきか考えれば、行政の抱えている課題を解決する糸口になると思う。

・今後の10年を考えると、現状では行政が抱え過ぎていて、手を放すのが大事になってくる。

・行政とコミュニティとの協働を考えると、“チェック”とか“管理”といった見方ではなく、共生することが大事だと思う。協働とは、民間と行政の足りないところを補完し合うといった表現が見られるが、一緒につくっていくというのが本来の意味ではないか。

・地域福祉などの生活関連のものはすべてコミュニティと関わってくるので、専門プロジェクトを立ち上げてほしい。

・人口関連の質問は、配布された統計書に載っている。しかし、それを行政に読み解いてもらいたかったから質問した。ここを読み解くと、今後どこに力を入れるべきかわかってくると思う。

### 【委員】

- ・コミュニティの欠落の部分をいかに立て直すのか、それが今後の羽咋のまちづくりの鍵になると思う。
- ・そのためにはツールがいる。まず除雪機を町会に買って皆で雪どかしをするというのはどうか。町会にも市にも金がないのはわかるが、なにかいい手立てはないか。

### 【企画財政課長】

- ・委員から提言のあった除雪機について、一昨日建設課に指示をしたところ。町会に計画的に何台渡せばいいかなど。来年度に予算化ができればと考えている。
- ・委員から幼児健診について提言があったが、今後は少子化対策に予算をつけていかなければならないのかなと思っている。しかし、子どもへ潤沢に投資したものの、都心の大学へ進学して、羽咋に就職先がないので戻ってこないのではという問題もある。羽咋に戻ってきてもらうためにも、企業誘致など産業を活性化し、生活できる経済的基盤を築けるようなまちづくりをしていく。そうした施策と両輪で行っていく必要があるのではないかと考えている。

### 【副会長】

- ・地域コミュニティづくりを平成に入り地道に行ってきた。地域福祉推進チームとして66町会できている。町会によって差こそあれ環境から子育て、防災に至るまでさまざまな分野で動いている。安全、安心のまちづくりの母体になっている。
- ・個人情報保護の流れの中で、地域の中で参画し、情報を得ることが難しくなっているものの、情報をもらえるような仕組みづくりが大事ではないか。
- ・民生委員や健康づくり推進委員にしても町会長が人選している。そういった意味でも町会長は自治の核になる。意識づけ、組織づくりが今後の羽咋市の大事な部分になる。
- ・雪が降ると除雪に経費がかかる。降らなければ助かるなという現実を考えたりする。情報をどうやって知るか、羽咋市の問題がどこにあるのか。例えば、独居老人などの情報は行政が地域に出していく。啓発活動がこれからは大事ではなからうか。住民の知る情報の質が上がり、レベルがあがる。
- ・羽咋市は町会など組織がきめ細かい形で動いていると思う。少ない子どもをいかに羽咋市の組織の中で活性化していくか、全体に影響を与えることだと思う。

### 【委員】

- ・青年団として出合いの場をつくることで子育て支援をしている。今、補助金がカットされていて青年団活動が大変厳しい。行政の支えがないと団室の確保なり、各種事業が行えなくなる。団員が苦勞だけしているとなるとやりたがらない。それが青年団活動の衰退の原因になっている。
- ・青年団活動は地域の中でつながりを持ち貢献している。保育所とタイアップしたり、永光寺で行っている小中学生の通学合宿への参加、眉丈園での高齢者へのボランティア活動など多岐に渡る。
- ・青年団への補助金がカットされ、県内では最も少なくなっている。これでは疲弊していく。この審議会でたくさんの方の青年層への期待の声を聞いた。地域に根差した青年として地域を担い、実現していくことがあると信じている。もう少し行政の協力、支えがほしい。
- ・青年団として地元の祭りを通して寄付金を集めたりしている。その際に、独居老人だったり、年金暮らしだったりという情報を把握できている。地域への関心も持っている。
- ・今ある青年団など既存のコミュニティも大切にしてほしい。

### 【会長】

- ・統計などから判断するに、平成30年では税金が払える人は4千人だというのが私見。2万人の羽咋市民を養うことになる。1人が5人を支えることになる。ないものは手当できないし、ある税金からしか対処できない。地域でお互いが協力し合い、協働でおこなっていく必要が出てくる。そのような実態を踏まえた上でのご提言を頂きたい。

### 【アドバイザー】

- ・いい議論ができていたのではないかと。提言をまとめると、これからの計画は子育て支援を重点に据える。高齢者福祉については、介護保険が充実してきているので、おろそかにするわけではないが、高齢者の中で頑張ってもらったり、コミュニティで支えたりしていく。
- ・留意点として、地域福祉を実現していく際にネックになっているのが、個人情報保護だという意見があった。行政が情報を持っているので、住民がアクセスしやすいように何らかの形で提供していく努力をする。住民としてもあまり個人情報を盾にとるようなことを控え、行政を擁護する必要があるだろう。

### 【委員】

- ・「美しい羽咋市作り」を提言させて頂いた。もっといきいきとした活性化した

まちにするためには、観光資源をもっと有効活用したらどうか。

- ・また住みやすいまちにして他の地域から転入してもらう。裕福な高齢者もいるので、老後を羽咋でというのもよいのではないか。財政も潤うだろう。千里浜を有する羽咋は、美しいまちで、住みやすいまちだというPRの一つとして清掃活動などを提案した。

#### 【委員】

- ・千里浜なぎさドライブウェイについては、昔から疑問に思っていた。そもそも車で走ってよいものか。昔海水浴していたら、小さなカニが走り回っていた。今はほとんど見かけない。それが車のせい、環境汚染のせいかわからない。車で走るために本来砂浜に住む生物が住まなくなっているという学者もいる。
- ・観光資源というが、せいぜいレストハウスに立ち寄るくらいで、和倉温泉に行くか金沢に行くか通過してしまっている。いっそのこと観光バスしか通さないとか、緊急車両以外は通さないとしてはどうか。

#### 【委員】

- ・千里浜なぎさドライブウェイでの車両の通行を制限するという委員の提言には反対。羽咋で他の地域の人に誇れるのは、千里浜とUFOと妙成寺の3つくらいだと思う。似たような海岸は全国どこでもあるが、車が通れるのはここくらい。この特異で貴重な観光資源を維持していくのはどうしたらいいか、そちらを考えた方がいい。
- ・能登有料道路の今浜ICで土日に降りてくる県外ナンバーを見ると、1,000～1,500台降りてくる。そこに4,5人乗っている。合計で3～4千人規模になる。それが千里浜ICから上がってくる。それをいかに市内に引き込むか。地図を県外ナンバーの人に配布すると喜ばれる。
- ・降りてくる県外ナンバーは全国に及ぶ。北海道から九州まで、最も多いのは岐阜などの東海地方だが、これらの実態を知り、10年どう取り組むか。
- ・羽咋市に住みたいという人をつくるべき。知り合いで東京に住んでいた人で羽咋の風光明媚に惹かれて移り住んだ人がいる。誇りを持って進めるべき。

#### 【委員】

- ・環境と開発の問題は昔からあった。妥協案として、観光バスなど通行する車両から通行料を取ったらどうか。

#### 【企画財政課長】

- ・通行料に関しては、昔検討したことがある。しかし、そのための施設の管理、



入口、出口の管理などの問題があつて、頓挫した経緯がある。

・県外から訪れる人が多数いるとのご指摘があつたが、羽咋にお金を落としてもらう方法があればいい。例えば、関所をつくり土産を買わないと通過できないとか何らかの方法を考えていく必要はあるのかなと思う。

#### 【委員】

・羽咋には道の駅がない。高浜、高松には道の駅がある。国道 2 本、有料道路 1 本通っているところは羽咋しかないのに、道の駅がない。道の駅が地域の活性化にいかに関与しているか、テレビで放映している。そうやって引き込んでお金を落としてもらう。

・コスモアイル羽咋が今指定管理になって、これまで入らなかった観光バスも入ってきていると聞く。道の駅がなければ、行政じゃなくコミュニティができればいいと思う。そうやって活性化すれば雇用の問題も解決していくと思う。

#### 【委員】

・省資源・リサイクルについて、仕事の関係上電気の分野で劇的に変わってきているなという実感がある。今までガソリンが主流だったのが、自然エネルギーへシフトしつつある。自動車もバッテリーを積んだ電気自動車が出始めている。技術革新により自然エネルギーを活かしたまちづくりが大事になってくるのでないか。

#### 【委員】

・家庭の生ゴミ処理で、神奈川県の上野原市が生ゴミ処理機を各家庭に 100 台貸し出してテストをしている。箱の中に微生物を入れて生ゴミを処理するというもの。生ゴミを出さない仕組みづくりとして一つの参考になると思われる。

#### 【委員】

・提言に「地域住民総出の清掃活動」とあつたが、私の町会では年一回クリーンデーと決めて清掃活動を実施している。2～3時間かけ、地図を持ち、リーダーを決めて徹底してゴミ拾いをしている。町会長曰く、まちをクリーンにするだけでなく、ふれあい、コミュニケーションの一環でもあるという意味もあるとのこと。いいことをしているんだとの実感が持てた。こうした町会の取り組みを広報で取り上げてPRしてもらったら、環境への意識づけにもなるのではないか。

### 【委員】

- ・町会が清掃活動をするというのは、いかがかなと思う。千里浜での大規模なクリーン運動もあるが、何のために行っているのか。もともと塵浜といってゴミがあつて当たり前の浜。車を通すために行っている。町会でとやると無理が生じるのではないか。
- ・殊勝な人がいて、早朝の散歩に腰の運動になるといってゴミを拾っている人がいる。そうやって助長するのはいい。町会で行うのは、コミュニティの乱用ではないか。町会がコミュニティの核となるというのも再考を要する。

### 【会長】

- ・千里浜なぎさクリーン運動は、羽咋市市民憲章から実施するようになった経緯がある。

### 【委員】

- ・“防災訓練の充実”という提言を足してほしい。能登半島地震が発生した際に、健康福祉課から民生委員に地区の安否確認に入ってほしいと依頼があつた。独り暮らしを中心に地区を一時間半ほどかけ一巡し、報告しようとしたところ、携帯も一般回線も電話が通じないという状況があつた。
- ・天災の中で地震が予測不可能であり、最も恐ろしいもの。羽咋は邑知地溝帯があり、軟弱な地盤である。AEDの使用法、初期消火も大事だが、円滑な避難所の開設、誘導などの防災訓練を充実させることが非常に重要になる。

### 【委員】

- ・「羽咋市防災メモ」のパンフを提言したが、地震が起きたらと思って家を見回してみたが、家庭に何も無い。今まで住んだ他のまちではそういったものがあつた。羽咋は軟弱な地盤にある割には無防備ではないか。

### 【委員】

- ・原発についてもっと考えたほうがいいと思う。臨界事故が実際に起きているし、人災であるから可能性がある。羽咋市民がいざというときに、どうやって逃げるか。マニュアルをつくったほうがいい。

### 【企画財政課長】

- ・振り返りシートで出してもらった意見は、今後役所の専門部会で検討させて頂く。できるだけ吸い上げる方向で進めるが、意見をすべて網羅するのは困難だ。審議会で賛成、反対と意見が分かれるものもある。できるだけ取り入れて、

いかに予算づけして反映していくか、検討していく。

・私見だが、コミュニティや協働という言葉があるが、数年前から地方分権が進められてきて、市民の自立を促されてきた。バブルの頃までは税金も右肩上がり、行政にまかせきりでよかった。今、国が大きな借金を抱えている。基本は市民でできることは自らがいき、できないところを行政に任せる。町会なり地区がコミュニティとしての受け皿になる。今後10年間は市民が参加できるような仕組みを作っていく必要があるのではないかと考えている。

#### 【委員】

・提言の中でも優先順位があると思う。最近の家は壁が多いので火災が起きても逃げにくいといったことがあると思う。火災が起きた時にどこに逃げるか。家庭で確認する必要がある。行政に考えるきっかけをつくってもらいたい。

#### 【企画財政課長】

・洪水、地震、津波それぞれに対応したパンフレットは町会に配布している。しかし、各家庭用のポケット版のようなものがないので、今後検討したい。

#### 【委員】

・街灯に関しては、不審者対策になるし、子どもを守るためにも大切なもの。防犯のすべてが街灯でないものの、防犯にとっては効果があるものなので、補助は継続して行ってほしい。

#### 【企画財政課長】

・商店街の街灯については、国や市の補助が入ったりしている。それ以外のところは、市が設置している。電球は町会にお願いしている。電気代に関しては財政も厳しい折、カットさせてもらっている。

#### 【アドバイザー】

・防災や防犯で、完璧は難しい。ある程度以上の水準を求めるとなると、自己負担にならざるを得ないのかなと思う。しかしおろそかにすると、次世代を担う子どもの環境を守ることができない。コミュニティで皆で痛みを少しずつ分かち合っけて進めていくことがこれから大事ではないか。

## 6. 次回会議について

【事務局】

・第6回 9月9日（木） 19時から

## 7. その他

なし

## 8. 閉会